



にししょう

西小だより



HPはこちら→

「強く 正しく 健やかに」 令和6年 6月27日(木) 第5号 校長 都外川 潔

命の大切さ

6月25日(火)から7月1日(月)は、本校の「長崎っ子の心を見つめる教育週間」です。初日の朝には、私から子どもたちに次のような話をしました。

校長室の前には、みんなに読書に親しんでほしいと思って、絵本を置いてあります。その中で、最近人気なのが、「大ピンチずかん」です。その中には様々なピンチの場面があり、友達と立ち読みしながら、「これは自分もあった!」「これは大変だね…」などと、自分の経験とくらべながら読む声も聞こえて、いいなあと思っています。

実は、私もこれまでにたくさんの大ピンチがありました。今日はその中のひとつを紹介します。私が小学校に入る前、幼稚園生の頃の出来事です。大村公園の奥にテニスコートがあります。私の父親は当時テニスをしていて、その日は試合があり、私は父の応援をしていました。すると突然、後ろから声をかけられました。振り向くと、知らないおじさんがいて、その人は、私にこう言いました。「あなたのお母さんが、さっき交通事故にあって、病院に運ばれたよ。おじさんと一緒に病院へ行こう。」それを聞いた私はびっくりして、その人について行こうとしました。そのとき、近くにいた私の姉がそれに気づいて、「何しよると!」と大きな声をあげました。すると、その人は、あわてて立ち去っていきました。…父が家に電話すると、私の母は家で無事に過ごしていました。私に声をかけた人は、きっと私を誘拐しようとしていたのでしょうか。姉が気づいてくれなかったら、私は命をうばわれていたかもしれません。

こんな経験もあって、私は今でも朝起きると、ご先祖様に「今日も無事に命があって、ありがとうございます。」とお礼を言っています。みなさんも、自分の命はあって当たり前だと思っているかもしれませんが、きっとこれまでに(あなたが気づいていないことも含めて)たくさんの大ピンチがあって、家族の人に助けられたり、運が良かったりして、今日の命があるのだと思います。

私たちの命は一人に一つだけ大切なものです。みなさんが生まれる前のことですが、長崎市と佐世保市で、2年続けて、「子どもが子どもの命を奪う」という大変なことが起こってしまい、私たち大人が「何とかしなければ」という思いから、この教育週間は始まったのです。

「人のものを奪う」、「人の幸せを奪う」、「人の命を奪う」……この3つのことは、絶対にしてはいけないことです。「自分にされていやなことは、人にしない、言わない」という西小たった一つの約束を、これからはしっかり守っていきましょう。

西大村小学校には、朝から笑顔であいさつができる子がたくさんいます。また、高学年を中心に、あいさつ運動や校内の清掃などのボランティア活動に進んで取り組む子もいます。どの子にも、一人一人にそれぞれのよさがあります。そんな子どもたちのよさを、私たち大人は、学校でも、家庭でも、地域でも、しっかり認めてほめることが大切だと思います。